

令和5年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 徳力 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和5年4月18日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語、算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、算数）

教科に関する調査（国語、算数）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査（国語、算数）の結果

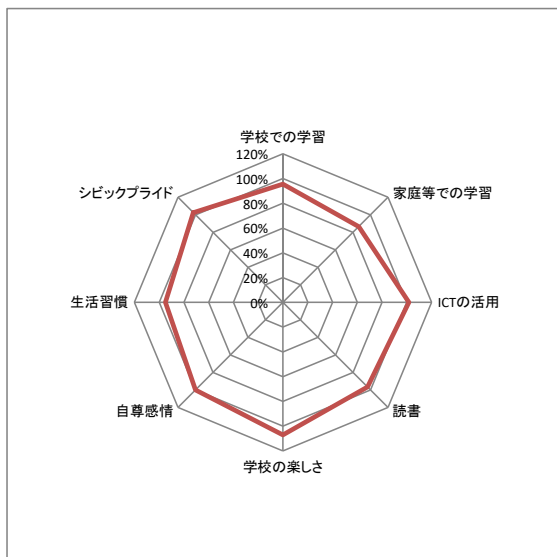
本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.3	66	9.4	59
全国	9.4	67	10.0	63

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	全国平均値をやや下回っている。「思考力・判断力・表現力」を問う、記述式の問題の正答率が低く課題となっている。	全国平均正答率との比較	下回っている
	よくできた問題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2つの資料から、中心となる語や文を見付けて要約し、書かれている内容として適切なものを選択する問題。 ・ 「比べて」等、送り仮名に注意して漢字を文の中で正しく使えるかを問う問題 		
	努力が必要な問題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する記述問題 ・ 目的や意図に応じ、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめる記述問題 		

算数	全体的な傾向や特徴など	全国平均値をやや下回っている。特に、「図形」や「表やグラフなどのデータの活用」についての正答率が、全国平均値を下回っていた。	全国平均正答率との比較	下回っている
	よくできた問題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「5脚の椅子を重ねたときの高さを求める」のような、伴って変わる2つの数量について、表から変化の特徴を読み取り解答する問題 		
	努力が必要な問題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「割合が30%となっているものを選ぶ」問題や、「台形の意味や性質」について理解できているかを問う問題。 		

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 「学校に行くのは楽しい」「友達関係に満足している」「自尊感情の高まり」という点で、肯定的な回答をした児童の割合が高く、全国平均値を大きく上回っている。コロナ禍の制限が緩和され、日々の授業はもちろん、異学年交流・学校間交流活動や学校独自の集会活動等を充実させた成果だといえる。 ・ 学校でのICT機器の活用については、「勉強の役に立つ」「学校でのICT機器の使用頻度が高い」と回答している児童が全国平均と同数値～全国平均値を上回っている。「ICTを効果的に活用した授業づくり」を学習指導の力点の一つとし、全学級で取り組んでいった成果といえる。 ・ 「家庭学習時間は、平日は1時間以上」の割合が、全国平均値よりも下回っている。学習習慣を身に付けることの価値について、継続的に児童に伝えることができていないことが要因として挙げられる。 	

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

- ・ 各教科等の授業の中で、児童が自分の考えを「読む」「書く」「話す」活動をバランスよく取り入れ、「思考力・判断力・表現力」の向上に努めていく。
- ・ 児童の言葉で「めあて」「まとめ」を設定し、視点をもたせて1時間の授業の「ふりかえり」を記述・発言させていくを通して、主体的に学習に取り組む態度の育成に努めていく。
- ・ ICT機器による学習とノート・プリント等の学習とを効果的に組み合わせながら、児童の学力向上に努めていく。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- ・ すべての児童が「学校が楽しい」「自尊感情が高まっている」と感じることができるよう、児童の小さな頑張りや認め励まししながら、日々の指導に努めていく。
- ・ 家庭学習（課題として与える宿題と、児童自身が主体的に学ぶ自主学習）の意義・方法等について、学校が児童・家庭へと発信していくようにする。